

令和2年度版(2020年度版)『小学算数』 年間指導計画案（1年）

●評価規準の参考事例●

各時間の「おもな評価規準」は、3つの観点のうち、その時間で中心になるものにしぼって示し、各時間における評価の重点が明らかになるようにしています。なお、3つの観点は、文頭に以下の印を付けてあります。

知・技	……知識・技能
思・判・表	……思考・判断・表現
態 度	……主体的に学習に取り組む態度

※本資料で示した各単元の目標や評価規準、学習活動、配当時数などは、今後公開される各種情報によって、変更となる可能性があります。ご了承ください。

『小学算数』 1年 年間指導計画（詳細案）

* さんすうの はじまり （上口絵1～口絵5） 配当時数なし

※ 「さんすうの はじまり」（口絵1～口絵5）は、幼稚園や保育園などこれまでの生活の中のようなすが写真で示されている。オリエンテーションや短時間学習などを通して弾力的に扱う。

0 ともだち （上P. 2～9）

4月中旬 [3時間]

【単元の目標】

- 数の概念や表し方を理解し、数の大きさやまとまりに着目して、数の大きさの比べ方を考えとともに、数に親しみ、算数を学ぶことの楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…観点に応じた集まりのつくり方や1対1対応による数の比べ方を理解し、観点に応じてものの集まりをつくることや1対1対応によるものの個数、相等、多少を比べることができる。

思・判・表…数のまとまりに着目し、観点に応じたものの集まりをつくったり、1対1対応させるといった数の大きさの比べ方を考えたりしている。

態 度…数のまとまりに着目することのよさや具体物を用いた活動を通して数の多少を比べたりすることのよさに気づき、算数を学習する楽しさを感じながら学ぼうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○池のまわりにいる動物たちや生き物に興味を持ち、お話を想像するとともに、ものの集まりやその個数（1～5）に関心を持ち、観点を意識してものの集合をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 絵を見て自由にお話をする。 同じ動物、生き物などに着目し、いろいろな観点に応じた集合づくりをする。 	<p>思・判・表数のまとまりに着目し、観点に応じたものの集まりを考えようとしている。</p> <p>態 度いろいろな観点に応じて、集合をつくらうとしている。</p>
2	○2つの集合の要素を1対1に対応させて、数の多少を比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 2つの集合の要素を、1対1対応させて比べる方法を考える。 犬とバケツなどの2つの集合の要素を、線を結んで1対1対応させて、数の多少を比較する。 	<p>知・技1対1対応による数の比べ方を理解し、2つの集合要素を比べることができる。</p> <p>思・判・表1対1に対応させて数の多少を比べる方法を考えている。</p>
3	○2つの集合の要素を、おはじきに置きかえて対応させ、比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 2つの集合の要素の相等や多少を比較する方法を考える。 カレーと机などの2つの集合の要素を、おはじきを用いて、数の相等や多少を比べる。 	<p>知・技2つの集合の要素を、おはじきを用いて比べることができる。</p> <p>思・判・表2つの集合の要素を、おはじきに置きかえ、対応させて比べる方法を考えている。</p>

1 10までの かず （上P. 10～27）

4月下旬～5月中旬 [9時間]

【単元の目標】

- 10までの数について、数字の正しいよみ方やかき方、構成を理解し、個数を調べるのに半具体物や数字に置きかえて数えたり、考えたりするとともに、数詞や数字で表すことや比べることのよさ、楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…0から10までの数の唱え方と、数字のかき方、数の順序や系列、大小を理解し、数を正しく数えたり、数字で表したりすることができる。

思・判・表…数のまとまりに着目し、0から10までの数について半具体物や数字に置きかえて考えたり、数にかかわる活動を通して、ものの個数・相等・大小を考えたりしている。

態 度…身の回りにあるものの数を数えたり、数字で表したりすることや数を比べたりすることのよさに気づき、算数を学習する楽しさを感じながら学ぼうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○「いち」「に」「さん」「し」「ご」の数詞を知り、確実に数えることができる。	・「いち」…「ご」の数詞を知り、確実に数える。 ・1から5までの数について、半具体物、数図、数字を互いに対応させる。	態度 身の回りのものの個数を数えるのに、数を用いて表そうとしている。 知・技 1から5までの個数を数えることができる。
2	○1から5までの数字のよみ方、かき方を理解する。	・1から5までの数字のよみ方、かき方を知る。 ・1から5までの数について、具体物、半具体物、数を関連づける。	知・技 1から5までの数のよみ方、かき方を理解し、数字をよんだり、数えたりすることができる。
3	○1から5までの数について、数字や絵で表現することができる。	・1から5までの数の表し方について練習する。	知・技 5までの数を、具体物、半具体物、数字に置きかえることができる。
4	○「ろく」「しち」「はち」「く」「じゅう」の数詞を知り、確実に数えることができる。	・「ろく」…「じゅう」の数詞を知り、確実に数える。 ・6から10までの数について、半具体物、数図、数字を互いに対応させる。	知・技 6から10までの個数を数えることができる。 思・判・表 数を調べるのに、半具体物に置きかえて考えている。
5	○6から10までの数字のよみ方、かき方を理解する。	・6から10までの数字のよみ方、かき方を知る。 ・6から10までの数について、具体物、半具体物、数を関連づける。	知・技 6から10までの数のよみ方、かき方を理解し、数字をよんだり、数えたりすることができる。
6	○6から10までの数について、数字や絵で表現することができる。	・6から10までの数の表し方について練習する。	知・技 10までの数を、具体物、半具体物、数字に置きかえることができる。
7	○10までの数について、その系列を理解する。	・1から10までの数について、少ない数から並んだブロックを見て、その系列を調べる。	知・技 10までの数の系列を理解し、10までの数で、1増えた数を表すことができる。
8	○10までの数について、大小比較をすることができる。	・1から10までの数について、数の大小比較をする。	知・技 10までの数の大小を比べる方法を理解し、10までの数で、数の大小を比べることができる。
9	○集合数の要素がないことを表す0の意味やかき方を理解する。	・0という数を知る。	知・技 0の意味、かき方を理解している。

2 なんばんめ (上P.28~31)

5月中旬 [2時間]

【単元の目標】

- ・数やことばを用いた位置や順番の表し方を理解し、集合数と順序数の違いを明らかにすることによって、集合数と順序数を数として統合的にとらえるとともに、具体的な場面で、位置や順番を表すのに数やことばを用いるよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…数やことばを用いた位置や順番の表し方を理解し、数を用いて位置や順番を表すことができる。

思・判・表…数を集合数や順序数を表すものとしてとらえ、表し方を考えている。

態 度…具体的な場面で、位置や順番を表すのに数やことばを用いるよさを感じている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○集合数と順序数の違いを理解するとともに、数やことば、順序数を用いて、横に並んだものの順序や位置を表すことができる。	・絵を見て、順序や位置（前後）を表すのに、数やことばを用いることを知る。 ・集合数と順序数の違いを考える。	知・技 集合数と順序数の違いを理解し、順序や位置（前後）を数やことばを用いて表すことができる。 態度 数やことばを用いて順序や位置（前後）を表そうとしている。

2	○左右・上下のことばと順序数を用いて、ものの位置を表すとともに、集合数と順序数の違いをふまえ、日常生活に活用することができる。	・黒板に貼った絵を見て、物の位置(左右/上下)を表すのに、数やことばを用いることを知る。	知・技 身の回りのものや絵に示されたものの位置や順序を説明することができる。 思・判・表 「左右」「上下」などのことばを使い、数を用いてももの順番や位置を表す方法を考え、説明している。
---	---	--	---

3 いくつと いくつ (上P.32~41)

5月下旬 [7時間]

【単元の目標】

- ・10までの数について数の構成(合成・分解)を理解し、数を多面的な見方ととらえるとともに、数に親しみ、算数を学ぶことの楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…10までの数の構成(合成・分解)を理解し、10までの数の合成・分解や10までの数の多様な見方(加法的な構成)ができる。
- 思・判・表**…10までの数について、2つの数から1つの数を考えたり、1つの数を2つに分けたりして、数を多面的にとらえようとしている。
- 態度**…1つの数を、ほかの数を用いていろいろな表し方ととらえようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○5人グループをつくる活動を通して、5を2つの数の組み合わせとしてとらえることができる。	・5人グループをつくる活動を通して、5の分解を体験する。 ・5の合成・分解を行う。	態度 5人グループをつくる活動を楽しみながら、5の構成を調べようとしている。 知・技 5の合成・分解ができる。
2	○手の中に隠したおはじきの数を考える活動を通して、6の合成・分解ができる。	・手の中に隠したおはじきの数を考える活動を行う。 ・6の合成・分解をまとめる。	知・技 6の合成・分解の仕方を理解し、6の合成・分解ができる。
3	○2つのさいころの目をあわせて7にする活動を通して、7の合成・分解ができる。	・2つのさいころの目をあわせて、7にする活動を行う。 ・7の合成・分解をまとめる。	知・技 7の合成・分解の仕方を理解し、7の合成・分解ができる。
4	○数字カードを組み合わせて8をつくる活動を通して、8の合成・分解ができる。	・数字カードを組み合わせて、8をつくる活動を行う。 ・8の合成・分解をまとめる。	知・技 8の合成・分解の仕方を理解し、8の合成・分解ができる。
5	○数字カードを組み合わせて9をつくる活動を通して、9の合成・分解ができる。	・数字カードを組み合わせて、9をつくる活動を行う。 ・9の合成・分解をまとめる。	知・技 9の合成・分解の仕方を理解し、9の合成・分解ができる。
6	○数字カードを組み合わせて10をつくる活動を通して、10の合成・分解をすることができる。	・数字カードを組み合わせて、10をつくる活動を行う。 ・10の合成・分解をまとめる。	知・技 10の合成・分解の仕方を理解し、10の合成・分解ができる。
7	○10づくりのゲームを通して、楽しみながら10の合成・分解に習熟する。	・10個のブロックを使って、数あてゲームを行う。 ・数字カードをあわせて、10にする活動を行う。 ・10になる数を選んで、線で囲む活動を行う。	思・判・表 10の合成・分解を通して、10をいろいろな観点から考えている。

4 あわせて いくつ ふえると いくつ (LP. 42~53)

6月上旬~6月中旬 [9時間]

【単元の目標】

- ・加法の意味や加法の用いられる場面について理解し、数量の関係に着目し、具体物や図などを用いて加法の計算の仕方を考えるとともに、合併・増加の場面を式に表すよさに気づき、学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…合併・増加の場面について、加法の意味や和が10以下の加法の計算の仕方を理解し、「+」「=」の記号を用いて式に表したり、その計算をしたりすることができる。

思・判・表…数量の関係に着目し、絵や図に表したり、ブロックを操作したりしながら、合併・増加の場面を加法として考えている。

態度…身の回りから合併・増加の場面を見つけ、式に表すよさに気づき、ことばで表したり、加法を用いて解決したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
単元アプローチ (P. 42) 1時間			
1	○2つの数量を見つけ、合併の場面のお話をつくる。	・さし絵を見て、合併・増加の場面でのお話づくりをする。	知・技 絵を見て、順序よくお話をつくることができる。 態度 さし絵を見て、合併・増加の場面のお話をつくらうとしている。
あわせて いくつ (P. 43~45) 2時間			
2	○「+」「=」のかき方や「しき」「たしざん」の意味を知り、合併の場面を式に表す方法を理解する。	・合併の場面で、さし絵やブロックの操作を見て、加法の意味をとらえる。 ・合併の場面での式の表し方を知る。	知・技 合併の場面では加法が用いられることを知り、「+」「=」のかき方や立式の仕方を理解している。 思・判・表 問題場面を加法としてとらえ、さし絵やブロックの操作、式を関連づけて、合併の場面を考えている。
3	○合併の場面における加法の意味理解を深め、和が5以下の計算ができる。	・合併の場面における加法の式、答えなどのかき方を練習する。	知・技 合併の場面を式に表し、和が5以下の加法の計算ができる。 思・判・表 数量の関係に着目し、問題場面を加法としてとらえ、絵などを用いて考えている。
ふえると いくつ (P. 46~50) 3時間			
4	○増加の場面における加法の意味理解し、式の表し方や答えのかき方を理解する。	・さし絵を見て、増加の場面でのお話づくりをする。 ・増加の場面で、さし絵やブロックの操作を見て、加法の意味をとらえる。 ・増加の場面での式の表し方を知る。	知・技 増加の場面でも加法が用いられることを知り、立式の仕方を理解している。 思・判・表 増加の場面も合併の場面と同じように、加法としてとらえている。
5	○加法の適用場面において加法の意味理解を深め、和が10以下の計算ができる。	・増加の場面における加法の式、答えなどのかき方を練習する。 ・フレーズ型の「式」の意味を知る。	知・技 増加の場面を式に表し、和が10以下の加法の計算ができる。 思・判・表 数量の関係に着目し、問題場面を加法としてとらえ、図などを用いて考えている。
6	○たし算カードを使って、和が10以下のたし算の計算に習熟する。	・計算カードを使って、和が10以下のたし算の練習をする。	知・技 和が10以下の加法の計算ができる。 態度 たし算カードを使って、たし算の練習をしようとしている。
0の たしざん (P. 51) 1時間			
7	○輪投げを通して、0の加法の意味を理解する。	・0を含む加法の意味を知り、計算をする。	知・技 0を含む加法の計算の仕方を理解している。 思・判・表 0の式に表したり、式をよみとったりして、0のはいった場面をとらえ、その計算の仕方を説明している。

おはなし づくり (P. 52~53) 2時間			
8	○お話づくりを通して、加法の意味理解を深める。	・合併・増加を総合的にとらえたお話づくりをする。	知・技 合併や増加の場面をお話にして表現することができる。 思・判・表 式やさし絵から合併や増加の場面をとらえ、お話を考えている。
9	○加法の場面の絵本づくりに取り組み、絵を用いて表現することができる。	【ハロー！さんすう】 ・合併・増加の場面をとらえて、たしざんえほんをつくる。	知・技 加法の場面を、絵を用いて表現することができる。 態度 加法の絵本づくりに関心を持ち、加法の場面を身の回りから見つけ、表現しようとしている。

5 のこりは いくつ ちがいは いくつ (上P. 54~66)

6月下旬~7月上旬 [10時間]

【単元の目標】

- ・減法の意味や減法の用いられる場面について理解し、数量の関係に着目し、具体物や図などを用いて減法の計算の仕方を考えるとともに、求残や求補、求差の場面を式に表すよさに気づき、学んだことのよさや楽しさを学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…求残や求補、求差の場面について、減法の意味や被減数が10以下の減法の計算の仕方を理解し、ひき算の記号「-」を用いて式に表したり、その計算をしたりすることができる。

思・判・表…数量の関係に着目し、絵や図に表したり、ブロックを操作したりしながら、求残や求補、求差の場面を減法として考えている。

態度…身の回りから求残や求補、求差の場面を見つけ、式に表すよさに気づき、ことばで表したり、減法を用いて解決したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
単元アプローチ (P. 54) 1時間			
1	○2つの数量を見つけ、求残の場面のお話をつくる。	・さし絵を見て、求残の場面でのお話づくりをする。	知・技 絵を見て、順序よくお話をつくること ができる。 態度 さし絵を見て、求残の場面のお話をつく ろうとしている。
のこりは いくつ (P. 55~59) 4時間			
2	○「-」のかき方や用語「ひきざん」の意味や求残の場面を式に表す方法を理解し、5までの数範囲の減法の計算ができる。	・求残の場面で、さし絵やブロックの操作を見て、減法の意味をとらえる。 ・求残の場面での式の表し方を知る。	知・技 求算の場面では減法が用いられることを 知り、「-」のかき方や立式の仕方を理解し ている。 思・判・表 問題場面を減法としてとらえ、さし絵 やブロックの操作、式を関連づけて、求残の 場面を考えている。
3	○求残の場面における減法の意味理解を深め、9までの数範囲の減法の計算ができる。	・求残の場面における減法の式、答えなどのかき方を練習する。	知・技 求残の場面を式に表し、減法の計算（9 までの数-1位数）ができる。 思・判・表 数量の関係に着目し、問題場面を減法 としてとらえ、絵や図などを用いて考えてい る。
4	○求補の場面における減法の意味を理解し、式の表し方や答えのかき方を理解する。	・求補の場面で、減法の意味をとらえ、式の表し方を考える。	知・技 求補の場面でも減法が用いられることを 知り、立式の仕方を理解している。 思・判・表 求補の場面も求残の場面と同じよう に、減法としてとらえている。
5	○ひき算カードを使って、被減数が10以下のひき算の計算に習熟する。	・計算カードを使って、被減数が10以下のひき算の練習をする。	知・技 被減数が10以下の減法の計算ができる。 態度 ひき算カードを使って、ひき算の練習をし ようとしている。

0の ひきざん (P. 60) 1時間			
6	○ボウリングを通して、0の減法の意味を理解する。	・0を含む減法の意味を知り、計算をする。	知・技 0を含む減法の計算の仕方を理解している。 思・判・表 0の式に表したり、式をよみとったりして、0のはいった場面をとらえ、その計算の仕方を説明している。
ちがいは いくつ (P. 61~64) 2時間			
7	○求差の場面における減法の意味を理解し、式の表し方や答えのかき方を理解する。	・求差の場面で、減法の意味をとらえ、式の表し方を考える。 ・求差の場面における減法の式、答えなどのかき方を練習する。	知・技 求差の場面でも減法が用いられることを知り、立式の仕方を理解している。 思・判・表 求差の場面も求残の場面と同じように減法としてとらえ、絵や図を用いて考えている。
8	○2数の違い(差)は、減法で求められることを理解する。	・どちらがどれだけ多いか、式やことばを使って考え表現する。 ・数の違いの求め方を考える。	知・技 求差の場合の式や答えのかき方を理解し、求差の場面を式に表し、計算して答えを求めたり、どちらがどれだけ多いかことばで表現したりすることができる。
おはなし づくり (P. 65~66) 2時間			
9	○お話づくりを通して、減法の意味理解を深める。	・求残や求補、求差を総合的にとらえたお話づくりをする。	知・技 求残や求補、求差の場面をお話にして表現することができる。 思・判・表 式やさし絵から求残や求補、求差の場面をとらえ、お話を考えている。
10	○減法の場面の絵本づくりに取り組み、絵を用いて表現することができる。	【ハロー！さんすう】 ・求残や求補、求差の場面をとらえて、ひきざんえほんをつくる。	知・技 減法の場面を、絵を用いて表現することができる。 態度 減法の絵本づくりに関心を持ち、減法の場面を身の回りから見つけ、表現しようとしている。

6 かずを せいりしよう (上P. 68~71)

7月上旬【2時間】

【単元の目標】

- ・ものの個数を絵や図を用いて表すことで、その特徴がわかりやすくなることを理解し、データの個数に着目し、身の回りの事象の特徴をとらえるとともに、数量を整理するよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…ものの個数を絵や図を用いて表すことで、その特徴がわかりやすくなることを理解し、簡単な絵や図を用いて表したり、よみとったりすることができる。
- 思・判・表**…データの個数に着目し、身の回りの事象に関する数の大小関係を、絵や図を用いて整理して表すことよさをとらえている。
- 態度**…数量を整理することに親しみ、ものの個数を絵や図を用いて整理することよさに気づき、いろいろな場面で活用しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○ものの個数を絵や図を用いて表したり、よみとったりすることができる。	・ものの個数を絵や図を用いて整理する。 ・絵や図を見て、ものの個数を考察する。	知・技 ものの個数を絵などに置きかえるときに、それらの大きさをそろえることや、並べるときに均等に配置することが必要なことを理解している。 知・技 ものの個数について、簡単な絵や図を用いて表したり、よみとったりすることができる。 思・判・表 データの個数に着目し、ものの個数を絵や図を用いて表すよさをとらえている。

2	○1つのデータから、整理する観点によって並び方を変えることによって、絵グラフの変化をよみとることができる。	【ハロー！さんすう】 ・咲いたあさがおの花の数を調べ、絵や図を用いて整理する。 ・咲いた曜日、花の色と観点を変えて並びかえた絵グラフを考察する。	【思・判・表】分類整理したい資料の個数に着目し、整理の仕方を考え、表現し、その特徴を考えている。
---	---	--	--

*** ふくしゅう (上P.72~73) 配当時数なし**

※	「ふくしゅう」(P.72~73)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。
---	---

7 10より おおきい かず (上P.74~83)

9月上旬~9月中旬 [8時間]

【単元の目標】

・20までの数について、数のよみ方やかき方、構成を理解し、10のまとまりと端数という見方を用いて数の数え方を考えるとともに、10といくつと数えるよさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

【知・技】20までの数のよみ方、かき方、順序や系列、大小を理解し、20までの数についてよんだり、かいたりすることができるとともに、20までの数の簡単な計算をしたりすることができる。

【思・判・表】数のまとまりに着目し、10のまとまりと端数という見方を用いて数の数え方を考えている。

【態度】10といくつと数えるよさに気づき、身の回りのものの数を数えたり、数を用いて表したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○20までのものの数を、10といくつという見方で考える。	・ヨットや魚、ひとでの数を数えることを通して、10より大きい数の表し方を考える。	【思・判・表】数のまとまりに着目し、20までのものの数を10のまとまりの数と端数としてとらえ、その表し方を考えている。
2	○20までのものの数を正しく数え、その数のよみ方、かき方を理解する。	・20までの数のよみ方、かき方を知る。	【知・技】20までの数のよみ方、かき方を理解し、20までのものの数を正しく数えたり、数字で表したりすることができる。
3	○20までの数の数え方の理解を深める。	・20までの数の数え方の定着を図る。 ・2ずつ、5ずつまとまったものの数をくふうして数える。	【知・技】20までのものの数を2ずつ、5ずつにまとめて数えることができ、「じゅういくつ」と表すことができる。 【思・判・表】20までの数を、10といくつという見方を用いたり、2ずつ、5ずつに着目したりして数えるくふうを考えている。
4	○20までの数について、「10といくつ」という見方で合成・分解ができる。	・20までの数の構成について、合成の見方で考える。 例 10と6で□ ・20までの数の構成について、分解の見方で考える。 例 13は10と□	【知・技】20までの数を、10といくつという構成に着目して表現できる。
5	○20までの数について、順序や系列を理解する。	・20までの数の系列をいろいろな見方でとらえる。	【知・技】かずのせん(数直線)の意味を理解し、20までの数について、順序や系列を理解している。
6	○20までの数について、大小比較の仕方を理解する。	・20までの数の大小関係を考える。	【知・技】20までの数について、大小比較の仕方を理解している。

たしざんと ひきざん (P. 82~83)		2時間	
7	○10と1位数の加法とその逆の減法の計算ができる。	・20までの数の構成を、10と1位数の加法とその逆の減法でとらえる。 例 10+6 16-6	知・技 数の構成にもとづいて、10といくつの加法とその逆の減法の計算ができる。 思・判・表 数の構成に着目して、10といくつの加法やその逆の減法の式に表して、計算の仕方を考えている。
8	○20までの数範囲で、繰り上がりのない(2位数)+ (1位数)や繰り下がりのない(2位数)-(1位数)の計算ができる。	・20までの数の構成を加法や減法でとらえる。 例 12+4 14-2	知・技 数の構成にもとづいて、繰り上がり・繰り下がりのない20までの数の計算ができる。 思・判・表 ブロックなどを用いて、計算の仕方を考えている。

8 なんじ なんじはん (上P. 84~85)

9月中旬 [1時間]

【単元の目標】

- ・時計の長針と短針の役割について理解し、1日の生活と関連づけて「何時」「何時半」の時刻をよむことができるとともに、時刻と日常生活を関連づけて時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…1日の生活と結びつけて、時刻の意味を理解し、「何時」「何時半」をよんだり、時計で表したりすることができる。

思・判・表…時計の長針・短針の位置関係をとらえ、「何時」「何時半」のよみ方を考えている。

態度…時刻に関心を持ち、1日の生活と関連づけて、時刻をよもうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○1日の生活と関連づけて、時刻の意味を理解し、時計を見て、「何時」「何時半」をよむことができる。	・1日の生活と関連づけながら、「何時」「何時半」の時刻をよむ。	知・技 「何時」「何時半」の時刻をよんだり、時計で表したりすることができる。 態度 時刻に関心を持ち、1日の生活と関連づけて、時刻をよもうとしている。

9 どちらが ながい (上P. 86~90)

9月下旬 [5時間]

【単元の目標】

- ・長さの意味を理解し、適切な方法で長さを比べる技能を身につけ、比べ方を見いだしたり、大きさを表現したりするとともに、長さを測定することのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…身の回りのいろいろなものの長さのはかり方、比べ方を理解し、長さを比べたり、任意の単位量のいくつ分として数で表したりすることができる。

思・判・表…身の回りの長さに着目し、いろいろなものの長さの比べ方を見いだしたり、基準量のいくつ分としての表し方を考えたりしている。

態度…身の回りのいろいろなものの長さに関心を持ち、くふうしてその長さを比べようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○具体的なものの長さを比べることを通して、長さの意味や直接比較の方法を理解する。	・2本の鉛筆やひも、紙の縦と横の長さを直接比較によって比べる。	知・技 長さを直接比較で比べる方法を理解している。 態度 身の回りにあるものの長さに関心を持ち、長さをくふうして比べようとしている。
2	○長さについて、間接比較の方法を理解する。	・本の縦と横の長さを、間接比較(テープで長さを抽出する)で比べる。 ・テーブルと扉の幅、水そうと机の幅を間接比較で比べる。	知・技 テープを用いて、長さを間接比較で比べる方法を理解している。 思・判・表 直接比べられない場面で比べたい長さに着目し、長さの比べ方を考え、見いだしている。

3	○テープを用いて、身の回りのものの長さを比べることができる。	【ハロー！さんすう】 ・身の回りのものの長さ比べをする。	知・技 テープに長さをうつつ取り、いろいろなものの長さを間接比較で比べることができる。 態度 テープを用いて長さを比べることで、直接比べることができないものが、比べられるというよさに気づいている。
4	○身の回りのものの長さを、基準量のいくつ分として数値化することを通して、測定の基礎を理解する。	・いろいろなものの長さを、任意単位を使って表す。	知・技 任意単位を用いて、ものの長さを表す方法を理解し、いろいろなものの長さを、基準量のいくつ分として、数で表すことができる。 態度 身の回りにあるものの大きさを単位として、そのいくつ分で数値化することで、大きさの違いを明確にすることができるよさに気づいている。
5	○身の回りのものの長さを、マス目のいくつ分として数値化することを通して、測定の基礎を理解する。	・いろいろなものの長さを、マス目の数を使って表す。	知・技 マス目を単位として、そのいくつ分かで長さを比べることができる。

10 ふえたり へったり (上P.91~95)

10月上旬 [4時間]

【単元の目標】

- ・3つの数の加減の計算の意味や仕方を理解し、その計算（答えが20未満）の技能を身につけるとともに、3つの数の計算が1つの加法や減法の式に表せるよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…いろいろな組み合わせの3つの数の加減の計算の意味や仕方を理解し、3つの数を用いて1つの式に表し、結果を計算で求めることができる。
- 思・判・表**…2つの数の加法や減法の考え方を使って、3つの数の加減の計算の仕方を考えている。
- 態度**…3つの数の計算が1つの加法や減法の式に表せるよさに気づき、算数を学習する楽しさを感じながら学ぼうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○加法と加法を組み合わせた3つの数の計算ができる。	・電車ごっこを通して、3つの数の計算の場面を体感する。 ・3つの数の加法の式の計算の仕方を考える。	知・技 3つの数の加法の場面を1つの式に表し、その計算ができる。 思・判・表 2つの数の加法の考えを使って、3つの数の加法の計算の仕方を考えている。
2	○減法と減法を組み合わせた3つの数の計算ができる。	・電車ごっこの場面を通して、3つの数の減法の式の計算の仕方を考える。	知・技 3つの数の減法の場面を1つの式に表し、その計算ができる。 思・判・表 2つの数の減法の考えを使って、3つの数の減法の計算の仕方を考えている。
3	○加法と減法、減法と加法を組み合わせた3つの数の計算ができる。	・3つの数の加減のまざった式の計算の仕方を考える。	知・技 いろいろな組み合わせの3つの数の加減の計算の意味や仕方を理解し、3つの数を用いて1つの式を表し、結果を計算で求めることができる。
4	○お話づくりを通して、3つの数の加減のまざった計算の意味理解を深める。	・3つの数の加減のまざった式の計算を総合的にとらえた問題づくりをする。	知・技 3つの数の加減のまざった場面を問題にして表現することができる。 思・判・表 式やさし絵から3つの数の加減のまざった場面をとらえ、問題を考えている。

11 たしざん (下P. 4~15)

10月中旬~10月下旬 [10時間]

【単元の目標】

- ・繰り上がりのある1位数と1位数の加法について、計算の意味や仕方を理解し、既習の計算の仕方や数の構成をもとに、具体物や図を用いて考えるとともに、考えた過程を振り返り、10のまとまりをつくるよさに気づき、今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…(1位数)+(1位数) [繰り上がりあり] の計算の仕方を理解し、その計算ができる。

思・判・表…1位数の構成や10の補数に着目して、計算の仕方を考え、説明している。

態度…10のまとまりをつくることよさに気づき、繰り上がりのある加法の計算の仕方を考えたり、活用したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
※	「つぎのがくしゅうのために」(P. 3) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○単元アプローチ (P. 4)		
・	・さし絵を見て、たし算の問題をつくる。		
2	○問題づくりを通して、繰り上がりのあるたし算に興味を持ち、計算の仕方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・加数分解に適した加法の計算の仕方を考える。 例 9 + 4 ・9 + 4 の計算の仕方をまとめる。 	<p>知・技加数分解による繰り上がりのある加法の意味を理解し、計算ができる。</p> <p>思・判・表学習したことをもとに、繰り上がりのある加法の計算の仕方を考えている。</p>
3	○加数分解による繰り上がりのある加法の意味理解を深め、計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・加数分解による繰り上がりのある加法の計算の定着を図る。 例 8 + 3 	<p>知・技加数分解による繰り上がりのある加法の意味を理解し、計算ができる。</p>
4	○被加数<加数の場合の繰り上がりのある加法の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・被加数分解に適した加法の計算の仕方を考える。 例 3 + 9 ・3 + 9 の計算の仕方をまとめる。 	<p>知・技被加数分解による繰り上がりのある加法の計算ができる。</p>
5	○繰り上がりのある加法の仕方の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・加数分解、被加数分解のどちらも使える場合の計算の仕方を考える。 例 6 + 7 	<p>知・技繰り上がりのある加法の計算ができる。</p> <p>思・判・表繰り上がりのある加法の計算の仕方を、10のまとまりをつくることに着目して考え、図や式などを使って説明している。</p>
6	○たし算カードを使って、繰り上がりのある加法の計算を習熟する。	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算カードを並べ、きまりを見つける。 ・計算カードを使って、繰り上がりのある計算の練習をする。 	<p>知・技繰り上がりのある加法の計算が確実にできる。</p> <p>思・判・表たし算カードの並び方や被加数・加数の変化の仕方から、式を関連づけてみている。</p> <p>態度たし算カードを使って、友だちと練習しようとしている。</p>
7			
8			
9	○式を見て、繰り上がりのある加法の問題をつくることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・加法の場面での問題づくりを行う。 	<p>知・技式を見て、加法の問題づくりができる。</p> <p>態度身の回りから、式に合う場面を見つけ、加法の問題づくりに取り組もうとしている。</p>
学習のまとめ 1時間			
10	○「たしかめポイント」(P. 15) に取り組み、学習内容についての理解を確かなものにする。		

12 かたちあそび (下P. 18~22)

10月下旬~11月上旬 [5時間]

【単元の目標】

- ・身の回りにある立体図形について、特徴や機能を生かして形を構成し、具体的な操作を通して形の構成について考えるとともに、図形に親しみ、学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…構成や観察を通して、ものの形を認めたり形の特徴を理解したりするとともに、身近にある具体物（箱や筒など）を用いて、ものの形を構成することができる。

思・判・表…立体図形の形に着目し、特徴をとらえたり、形の構成について考えたりしている。

態 度…図形に親しみ、身近にある具体物（箱や筒など）を使っていろいろなものの形をつくらうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○身の回りにある立体図形の特徴や機能を生かして、形を構成しようとする。	・箱などを積んだり重ねたりして、乗り物や動物などをつくり、具体物の特徴や機能を調べる。	思・判・表 立体図形の形に着目してものの形をつくるときに、立体図形の機能や形状を生かして考えている。 態 度 身近にある具体物を使っていろいろなものの形をつくらうとしている。
2	○手探りで立体図形を触り、その特徴をとらえ、立体図形を識別するとともに、形の特徴をつかみ、なかま分けをすることができる。	・箱など、身の回りの具体物（立体図形）を分類する。 ・立体図形の構成要素をとらえ、その特徴を説明する。 ・立体図形の構成要素をとらえ、識別する。	知・技 大きさや色、素材などを捨象して、形状によるなかま分けができる。 思・判・表 立体図形を識別することを通して、面や角などに着目して、立体図形の特徴を考えている。
3 4	○立体図形から平面図形が抽出できるとともに、立体の面をうつつして平面図形を抽出できる。	・立体の面をうつつして平面図形を抽出し、その形を使った絵をかく。	知・技 立体図形から平面図形を抽出することができることを理解し、身の回りの立体の面に着目して、まる、さんかく、しかくなどの形を認めることができる。
5	○具体物を操作してできた形について着目することで、図形についての理解を深める。	【ハロー！さんすう】 ・折り紙を折ってできた形の変化をみて、どんな形ができたか観察する。	思・判・表 具体物を操作することを通して、形に着目し、できた図形の特徴を考えている。

13 ひきざん (下P.24~35)

11月上旬~11月下旬 [10時間]

【単元の目標】

- ・繰り下がりのある(十何)-(1位数)の減法について、計算の意味や仕方を理解し、既習の計算の仕方や数の構成をもとに、具体物や図を用いて考えるとともに、考えた過程を振り返り、被減数を10といくつの数とすることに気づき、今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…(十何)-(1位数) [繰り下がりあり] の計算の仕方を理解し、その計算ができる。

思・判・表…数の構成に着目して、計算の仕方を考え、説明している。

態 度…被減数を10といくつの数とすることに気づき、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えたり、活用したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
※	「つぎのがくしゅうのために」(P.23)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 ・ 2	○単元アプローチ (P.24) ・さし絵を見て、ひき算の問題をつくる。	・減加法に適した減法の計算の仕方を考える。 例 13-9 ・13-9の計算の仕方をまとめる。	知・技 減加法による繰り下がりのある減法の意味を理解し、計算ができる。 思・判・表 学習したことをもとに、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えている。
3	○減加法による繰り下がりのある減法の意味理解を深め、計算ができる。	・減加法による繰り下がりのある減法の計算の定着を図る。 例 11-8	知・技 減加法による繰り下がりのある減法の意味を理解し、計算ができる。

4	○(十何)－(1位数)で、繰り下がりのある減法の計算を、減々法を使って計算することができる。	・減々法に適した減法の計算の仕方を考える。 例 12－3 ・12－3の計算の仕方をまとめる。	知・技 減々法による繰り下がりのある減法の計算ができる。
5	○繰り下がりのある減法の仕方の理解を深める。	・減加法、減々法どちらも使える場合の計算の仕方を考える。 例 15－8	知・技 繰り下がりのある減法の計算ができる。 思・判・表 繰り下がりのある減法の計算の仕方を、被減数を10といくつの数として考え、図や式などを使って説明している。
6 ・ 7 ・ 8	○ひき算カードを使って、繰り下がりのある減法の計算を習熟する。	・ひき算カードを並べ、きまりを見つける。 ・計算カードを使って、繰り下がりのある計算の練習をする。	知・技 繰り下がりのある減法の計算が確実にできる。 思・判・表 ひき算カードの並び方や被減数・減数の変化の仕方から、式を関連づけてみている。 態度 ひき算カードを使って、友だちと練習しようとしている。
9	○式を見て、繰り下がりのある減法の問題をつくることができる。	・減法の場面での問題づくりを行う。	知・技 式を見て、減法の問題づくりができる。 態度 身の回りから、式に合う場面を見つけ、減法の問題づくりに取り組もうとしている。
学習のまとめ 1時間			
10	○「たしかめポイント」(P.35)に取り組み、学習内容についての理解を確かなものにする。		

● たすのかな ひくのかな (下P.36~37) 12月上旬 [2時間]

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1 ・ 2	○加法・減法を使って問題を解決することを通して、演算を決定する力を伸ばす。	・問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて、解決する。	知・技 合併、求残、求差の問題を式に表して答えを求めることができる。 思・判・表 合併、求残、求差の問題場面を、加法や減法としてとらえている。

14 どちらが おおい どちらが ひろい (下P.38~43)

12月上旬~12月中旬 [5時間]

【単元の目標】

- ・かさや広さの意味を理解し、かさや広さの比べ方を考えとともに、かさや広さを測定することのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…身の回りのいろいろなもののかさや広さのはかり方、比べ方を理解し、かさや広さを比べたり、任意の単位のいくつ分として数で表したりすることができる。
- 思・判・表**…身の回りのかさや広さに着目し、いろいろなもののかさや広さの比べ方や、基準量のいくつ分としての表し方を考えている。
- 態 度**…身の回りのいろいろなもののかさや広さに関心を持ち、くふうしてそのかさや広さを比べようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
単元アプローチ (P.38) 1時間			
1	○容器が変わっても、かさは変わらないことを理解する。	・水をいろいろな容器に移しかえて、かさを比べる。	知・技 水のかさは、形の異なる容器に入れても変化しないことを理解している。 態度 水に移しかえて、水のかさがどのように変化するか調べようとしている。

1 かさくらべ (P. 38~41) 2時間			
2	○水のかさを直接比較, 間接比較の方法で比べることができる。	・かさの意味を知る。 ・かさを直接比較, 間接比較によって比べる。	知・技 かさを直接比較や間接比較で比べることができる。 思・判・表 かさも長さと同じように, 直接比較や間接比較で比べられると考えている。
3	○かさを任意単位を用いて, 数値化して比較する方法を理解する。	・かさを任意単位(カップ)を使って数値化し, 比べる。	知・技 任意単位を用いて, かさを比較する方法を理解している。 思・判・表 かさも長さと同じように, 任意単位を用いて, 数値化して表す方法を考えている。
2 ひろさくらべ (P. 42~43) 2時間			
4	○広さを直接比較の方法で比べることができる。	・広さの意味を知る。 ・広さを直接比較によって比べる。	知・技 広さを直接比較で比べることができる。 思・判・表 広さも長さやかさと同じように, 直接比較で比べられると考えている。
5	○広さを任意単位を用いて, 数値化して比較する方法を理解する。	・広さを任意単位(方眼)を使って数値化し, 比べる。	知・技 任意単位を用いて, 広さを比較する方法を理解している。 思・判・表 広さも長さやかさと同じように, 任意単位を用いて, 数値化して表す方法を考えている。

*** ふくしゅう (下P. 44~45) 配当時数なし**

※	「ふくしゅう」(P. 44~45) は, 短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。
---	--

15 20より 大きい かず (下P. 47~59)

1月上旬~1月下旬 [11時間]

【単元の目標】

- ・120程度までの数の構成, よみ方, かき方や順序や系列, 大小を理解し, 数のまとまりに着目し, 数の表し方や比べ方を考えるとき, 十進位取り記数法のよさに気づき, 今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…120程度までの数のよみ方, かき方, 順序や系列, 大小を理解し, 正しく数えたり, 数字で表したりすることができる。
- 思・判・表**…数のまとまりに着目し, 多くの数を数えるとき, 10ずつのまとまりをつくって考えるよさを見いだしている。
- 態度**…数のまとまりに着目することによって, 10ずつまとめるよさに気づき, 身の回りのものの個数を10のまとまりをつくって, 数えたり表したりしようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
※	「つぎのがくしゅうのために」(P. 46) は, 短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1 かずの あらわしかた (P. 47~50) 3時間			
1 ・ 2	○2位数を正しく数え, その数のよみ方とかき方や十進位取り記数法を理解する。	・20より大きい数の数え方(10がいくつ分とあといくつ)を考える。 ・2位数のよみ方, かき方(位取り記数法)を知る。 ・2位数の数え方の定着を図る。	知・技 2位数が示す数字の意味や, その数の大きさを理解し, 2位数をよんだり, かいたりすることができる。 態度 身の回りのものの個数を, 10のまとまりをつくって, 数えたり表そうとしたりしようとしている。
3	○2位数が示す各数字の意味を理解し, 2位数の構成について理解を深める。	・「10がいくつと1がいくつ」で表された数を表す。 ・数を「10がいくつと1がいくつ」とみてブロックを並べる。	知・技 2位数を, 加法的構造でみることを理解し, 2位数の構成を「10がいくつと1がいくつ」でとらえることができる。

2 100までの かず (P.51~54) 3時間			
4	○2位数の構成をもとに、100について調べ、100について理解する。	・100のよみ方、かき方を知る。	知・技 10が10個で100になることや、99より1大きい数は100であることを理解している。
5	○100までの数の数表から、数の構成や規則性を理解する。	・100までの数のカードを並べた数表の規則性について見つけたことを発表する。	知・技 0から100までの数の順序を正しく理解している。 思・判・表 数表から数の並び方のきまりを見だし、説明している。
6	○100までの数について、順序や系列、大小を理解する。	・かずのせん(数直線)を使って、100までの数の系列や大小関係を考える。	知・技 かずのせん(数直線)を使って、100までの数の順序や系列、大小関係を理解している。
3 100より 大きい かず (P.55~58) 4時間			
7	○100をこえる数の構成、よみ方、かき方を理解する。	・100をこえる数の表し方を考え、よみ方、かき方を知る。	知・技 100をこえる数の構成やよみ方、かき方を理解し、正しくよんだり、かいたりすることができる。
8	○120程度までの数について、順序や系列、大小を理解する。	・100をこえる数の系列や大小関係を考える。	知・技 120程度までの数の順序や系列、大小関係を理解している。
9	○120程度までの数について、数の多面的な見方をすることができる。	・数を多面的にとらえる見方について考える。	思・判・表 120程度までの数について、合成・分解などの多面的な見方で考え、説明している。 態度 120程度までの数について、いろいろな表し方を考え、発表しようとしている。
10	○身の回りにあるいろいろな数を見つけようとする。	【ハロー！さんすう】 ・身の回りにあるものから、120程度までの数を探す。	知・技 身の回りにある120程度までの数をよんだり、かいたりすることができる。 態度 身の回りで、120程度までの数が使われているものを探そうとしている。
学習のまとめ 1時間			
11	○「たしかめポイント」(P.59)に取り組み、学習内容についての理解を確かなものにする。		

*** うちゅう すごろく (下P.60~61) 配当時間なし**

※	「うちゅう すごろく」(下P.60~61)は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱う。
---	---

16 なんじ なんぷん (下P.62~65)

2月上旬 [2時間]

【単元の目標】

- ・1日の生活と結びつけて時刻の意味を理解し、時刻をよむことができるとともに、時刻を用いることで日常生活の行動に利用できるというよさに気づき、生活に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

- 知・技**…短針は「何時」、長針は「何分」を表していることを理解し、時計をよんだり、時計で時刻を表したりすることができる。
- 思・判・表**…時計の目盛りと長針、短針の位置関係に着目して、時刻のよみ方を考えている。
- 態度**…時刻を用いることで日常生活の行動に活用できるというよさに気づき、日常生活の中で時刻を用いようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○1日の生活と関連づけながら、「何時何分」をよむことができる。	・1日の生活と関連づけながら、「何時何分」の時刻をよむ。	知・技 短針は「何時」、長針は「何分」を表していることを理解し、時刻をよんだり、時計で時刻を表したりすることができる。

2	○日常生活と時刻を関連づけて発表することができる。	【ハロー！さんすう】 ・自分の生活と時刻を関連づけて、休みの1日について発表する。	【思・判・表】時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。 【態 度】時刻を用いることで日常生活の行動に生かせるというよさに気づき、日常生活の中で時刻を用いようとしている。
---	---------------------------	--	--

17 たしざんと ひきざん (下P.67~71)

2月上旬～2月中旬 [4時間]

【単元の目標】

・数の構成をもとに、(何十)±(何十)、(2位数)±(1位数) [繰り上がり、下がりなし] の計算の仕方を理解し、10のまとまりに着目し、既習の加法及び減法に帰着して計算の仕方を考えるとともに、考えた過程を振り返り、今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

【知・技】…(何十)±(何十)、(2位数)±(1位数) [繰り上がり、下がりなし] の計算の仕方を理解し、その計算ができる。

【思・判・表】…10のまとまりに着目し、既習の加法及び減法に帰着して計算の仕方を考えている。

【態 度】…数の構成をもとに計算できるよさに気づき、2位数の構成をもとにして、加法や減法の計算の仕方を考えようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
※	「つぎのがくしゅうのために」(P.66)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○(何十) + (何十) の計算の仕方を理解し、(何十) + (何十) = (何十)、100の計算ができる。	・数の構成(10がいくつ)をもとに、20+30の計算の仕方を考える。	【知・技】(何十) + (何十) の計算ができる。 【思・判・表】既習の計算と同じように、(何十)+(何十)の計算の仕方を、10を単位として考えている。
2	○(何十) - (何十) の計算の仕方を理解し、(何十)、100 - (何十) = (何十) の計算ができる。	・数の構成(10がいくつ)をもとに、50-20の計算の仕方を考える。	【知・技】(何十)、100 - (何十) の計算ができる。 【思・判・表】既習の計算と同じように、(何十)、100 - (何十)の計算の仕方を、10を単位として考えている。
3	○簡単な2位数の加法の計算の仕方を理解する。	・20+4の計算の仕方を考える。 ・35+3の計算の仕方を考える。	【知・技】数の構成(何十といくつ)をもとに、位で分けて計算する仕方を理解し、(何十)+(何)、(何十何)+(何) (繰り上がりなし) の計算ができる。
4	○簡単な2位数の減法の計算の仕方を理解する。	・26-6の計算の仕方を考える。 ・26-3の計算の仕方を考える。	【知・技】数の構成(何十といくつ)をもとに、位で分けて計算する仕方を理解し、(何十何)-(何)=(何十)、(何十何)-(何)=(何十何) (繰り下がりなし) の計算ができる。

18 ずを つかって かんがえよう (下P.73~81)

2月中旬 [4時間]

【単元の目標】

・問題場面の意味をよみとり、問題の要素を図に表して数量の関係をとらえ式に表すとともに、場面を図で表すことのよさに気づき、今後の学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の評価規準】

【知・技】…問題場面の意味をよみとり、その数量の関係を理解し、式や図で問題場面を表したり、式をよみとったりすることができる。

【思・判・表】…数量の關係に着目し、問題場面を1対1対応の考え方や筋道を立てた考え方を用いてとらえ、式に表している。

【態 度】…問題場面を図で表すことのよさに気づき、図や具体物を使って解決しようとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○順序数が含まれる問題を解くことができる。	・順序数が含まれる場面について、加法や減法の使い方を考える。	知・技 順序数が含まれる場面を、式や図で考え説明し、計算によって解くことができる。 思・判・表 順序数が含まれる場面を、図やブロックを使って考え、式で表している。
2	○2つの違う種類の数を同じ数に置きかえて問題を解くことができる。	・間接加法、間接減法の場面について、加法、減法の使い方を考える。	知・技 2つの違う種類の数の場合、1対1対応の考え方をういて式や図で考え説明し、計算によって解くことができる。 思・判・表 1対1対応の考え方をういて、式や図を使って問題場面を考えている。
3	○求大の場面を理解し、計算で解くことができる。	・求大の場面について、加法の使い方を考える。	知・技 問題に表された数量の関係を理解している。 思・判・表 2つの数量の関係をとらえ、式や図で表している。
4	○求小の場面を理解し、計算で解くことができる。	・求小の場面について、減法の使い方を考える。	知・技 問題に表された数量の関係を理解している。 思・判・表 2つの数量の関係をとらえ、式や図で表している。

19 かたちづくり (下P.82~85)

2月下旬 [4時間]

【単元の目標】

- ・色板やひごでいろいろなものの形を構成して形に対する感覚を豊かにし、ものの形や特徴を考えるとともに、算数のよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…色板やひごでいろいろなものの形を構成することを通して、ものの形や特徴を理解し、色板やひごを使って、いろいろな形を構成したり変形したりすることができる。

思・判・表…形に着目し、つくりたい形の構成の仕方を考えたり、形を構成している色板やひごをどのように移動させれば新しい形ができるか考えたりしている。

態 度…色板やひごでいろいろなものの形を構成することを通して、図形に関する経験を豊かにしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○色板でできた形が何かを考えたり、色板を使っているいろいろな形をつくったりすることができる。	・色板を組み合わせて、いろいろな形を構成する。	知・技 色板を使って、いろいろな形をつくること ができる。 態度 色板でできた形が何かを考えたり、つくったりしようとしている。
2	○色板を使っていろいろな形を構成したり、色板をずらしたり、回したり、裏返したりして形を変形したりすることができる。	・4枚の色板で図形を構成する。 ・色板を動かして、形を変形する。	知・技 ものの形を概形でとらえ、いろいろな形をつくること ができる。 思・判・表 ずらす、回す、裏返すなどの具体的な操作を通して、形のもつ性質や特徴を生かした構成について考えている。
3	○ひごを使って、いろいろな形を構成することができる。	・ひごを使って、いろいろな形を構成する。	知・技 ひごを使って、いろいろな形を構成できる。 態度 ひごを使って、いろいろな形をつくらうとしている。
4	○格子点を使って、いろいろな形を構成することができる。	・格子点を使って、いろいろな形を構成する。	知・技 格子点を使って、いろいろな形を構成できる。 態度 格子点を使って、いろいろな形をつくらうとしている。

20 おなじ かずずつ わけよう (下P.86~87)

3月上旬 [2時間]

【単元の目標】

- 1つの数を同じかずずつ分けることで、数にいろいろな見方があることを理解し、数のまとまりに着目し、絵や図、式に表して考えるとともに、まとめて数えることのよさを感じながら学ぶ態度を養う。

【単元の評価規準】

知・技…身の回りの具体物を等分する方法を理解し、具体物を何かかずずつに分けることができる。

思・判・表…数のまとまりに着目し、身の回りの具体物を何かかずずつに等分することについて、絵や図、式に表して考えている。

態 度…身の回りの具体物を適当な大きさのまとまりをつくって等分するために、まとめて数えることのよさに気づき、算数を学習する楽しさを感じながら学ぼうとしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○具体物を同じかずずつ分けることができる。	・りんごを1人に同じかずずつ分けると、何人に分けられるか考える。	知・技 ブロックや絵などを使って、同じかずずつ分けるときの人数を求めることができる。 思・判・表 ブロックや絵などを使って、具体物を同じかずずつ分ける方法を考えている。
2	○1人分の数を求めることができる。	・バナナを何人かで同じかずずつ分けると、1人分はいくつになるか考える。	知・技 ブロックや絵などを使って、1人分の数を求めることができる。

● 1年の まとめ (下P.89~92) 3月上旬 [4時間]

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1 ~ 4	○1年の学習内容についての理解を確かなものにする。	・1年の学習内容を確認する。	知・技 1年の学習内容について、解決の仕方を理解している。